

資料6

素材生産動向（概要）

－ 平成27年11月見通し －

平成27年11月19日

北海道森林管理局

（担当：資源活用第一課）

調査対象事業体数

	事業体数 (A)	調査対象数 (B)	回答数 (C)	回答率 (C)/(B)	該当する（総合）振興局
全道	515	279	215	77%	
札幌地区	105	52	51	98%	石狩、空知、胆振、日高
旭川地区	114	63	43	68%	上川、留萌、宗谷
北見地区	91	58	39	67%	オホーツク
帯広地区	137	55	38	69%	十勝、釧路、根室
函館地区	68	51	44	86%	渡島、檜山、後志

（注）事業体数(A)は、北海道林業事業体登録制度に基づき登録された林業事業体のうち、素材生産事業を実施している者。
調査対象数(B)は、アンケート調査の結果により実質的に素材生産事業を行っていない者を除いた数。

【11月の素材生産動向（概要）に対するコメント】

- ・「1.素材生産量」では、全道では概ね前月並みとなっています。地区別では、旭川、帯広では増加、札幌、函館では変わらず、北見では減少しています。
- ・「2.素材生産量の増減」の比率では「増えた」が38%、「変わらない」が36%、「減った」が26%で、概ね前月同様の傾向となっています。
- ・「3.素材生産動向」の全般的な動きでは、「順調」が25%、「並み」が59%、「不調」が16%となっており、前月に比較して「順調」が5ポイント減り、並みが6ポイント増えています。地区別では、旭川では「順調」へ、札幌、函館、北見では「不調」へ、帯広は変化なしの傾向となっています。
- ・樹種別に見ると原料材は「順調」、一般材は「並」の傾向となっています。
- ・「4.素材生産動向の事由」は、「通常の変動」以外では、増の事由として「生産性の向上」、減の事由として「天候不順」と前月同様の傾向となっています。

1. 素材生産量

（単位：千m³）

区 分	全道			札幌地区			旭川地区			北見地区			帯広地区			函館地区		
	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差
素材生産量	199.7	210.0	10.3	42.2	42.2	0.0	22.7	31.7	9.0	61.3	59.1	-2.2	45.6	49.0	3.4	27.9	28.0	0.1

2. 素材生産量の増減

（単位：%）

区 分	全道			札幌地区			旭川地区			北見地区			帯広地区			函館地区		
	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差
増えた	35	38	3	31	34	3	12	41	29	45	26	-19	35	58	23	53	34	-19
変わらない	42	36	-6	47	35	-12	61	40	-21	35	44	9	30	29	-1	35	34	-1
減った	23	26	3	22	31	9	27	19	-8	20	30	10	35	13	-22	12	32	20

（注）調査回答のあった事業体のうち、前月との比較が可能な事業体の構成比

3. 素材生産動向

(1) 全般

(単位：％)

区 分	全道			札幌地区			旭川地区			北見地区			帯広地区			函館地区		
	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差	前月	当月	差
極めて順調	4	4	0	3	5	2	0	6	6	10	3	-7	3	0	-3	3	6	3
やや順調	26	21	-5	27	15	-12	28	24	-4	17	17	0	21	24	3	39	26	-13
並み	53	59	6	54	58	4	48	48	0	56	60	4	61	68	7	42	59	17
やや不調	17	15	-2	13	22	9	24	18	-6	17	17	0	15	8	-7	16	9	-7
極めて不調	0	1	1	3	0	-3	0	3	3	0	3	3	0	0	0	0	0	0

(注) 各区分に回答した事業体の構成比

(2) 樹材種

(単位：回答数)

区 分	全道						札幌地区						旭川地区					
	カラマツ 一般材	トドマツ 一般材	L 一般材	カラマツ 原料材	N 原料材	L 原料材	カラマツ 一般材	トドマツ 一般材	L 一般材	カラマツ 原料材	N 原料材	L 原料材	カラマツ 一般材	トドマツ 一般材	L 一般材	カラマツ 原料材	N 原料材	L 原料材
極めて順調	7	8	6	8	8	8	2	2	2	3	4	1	1	2	2	0	1	2
やや順調	17	27	14	21	28	29	4	5	2	5	5	6	3	6	6	3	6	7
並み	44	64	30	44	64	45	13	17	6	13	17	13	6	10	3	5	10	4
やや不調	23	18	17	10	8	15	7	6	5	5	5	7	3	3	2	2	1	4
極めて不調	3	1	4	3	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	2	1	0	1

(単位：回答数)

区 分	北見地区						帯広地区						函館地区					
	カラマツ 一般材	トドマツ 一般材	L 一般材	カラマツ 原料材	N 原料材	L 原料材	カラマツ 一般材	トドマツ 一般材	L 一般材	カラマツ 原料材	N 原料材	L 原料材	カラマツ 一般材	トドマツ 一般材	L 一般材	カラマツ 原料材	N 原料材	L 原料材
極めて順調	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	1	1	4	4	1	3	2	3
やや順調	2	5	1	2	5	3	4	7	3	8	7	11	4	4	2	3	5	2
並み	8	12	7	8	12	10	13	14	12	13	17	14	4	11	2	5	8	4
やや不調	5	2	2	1	1	2	8	5	4	2	0	0	0	2	4	0	1	2
極めて不調	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1

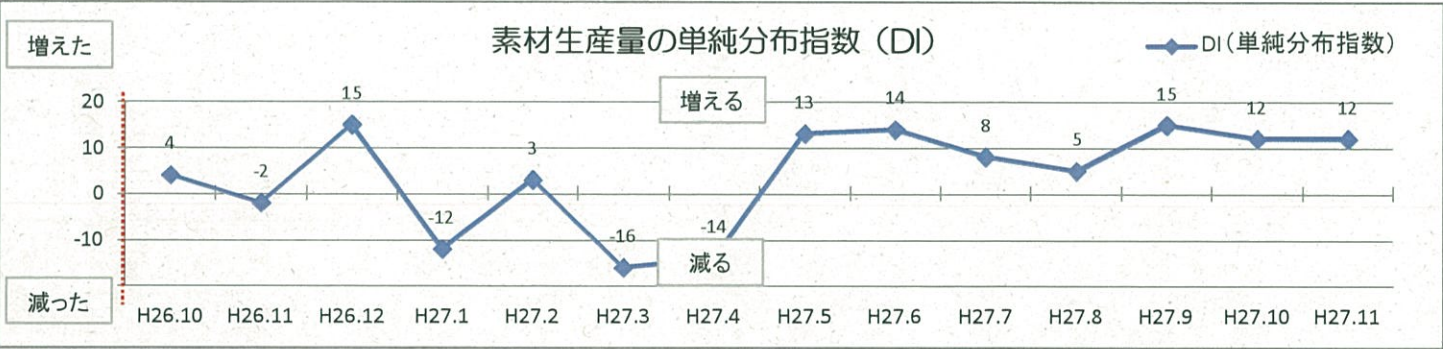
(注) 該当するものについて複数回答

4. 素材生産動向の事由

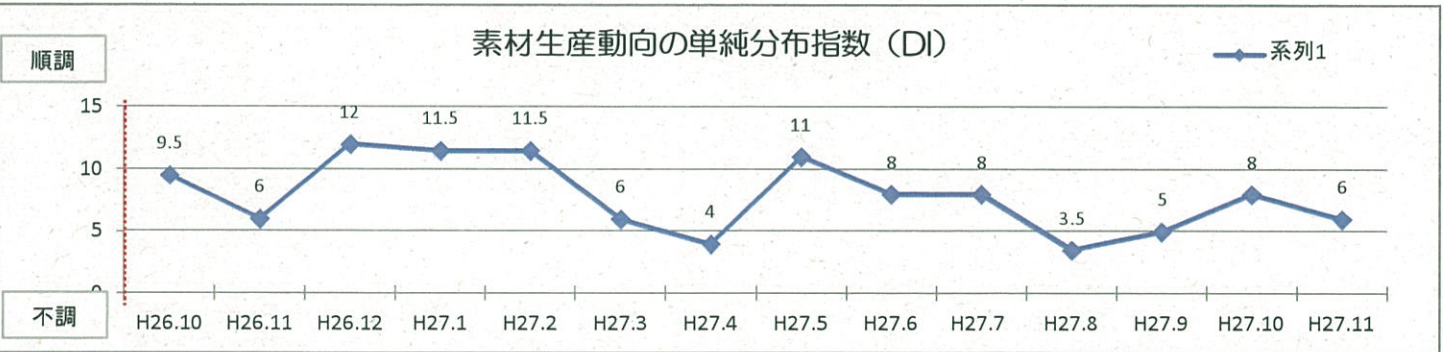
(単位: 回答数)

	丸太注文の増加	時間外など稼働率向上	体制充実	生産性向上	通常の変動	その他		
数量の増	4	0	3	12	67	0		
	丸太注文の減少	事業地不足	労働力不足	運材車不足	機械の故障等不測の事態	天候不順	通常の変動	その他
数量の減	5	5	8	4	4	21	34	3

(参考)



アンケート調査の回答においてプラス（増えた）の選択肢とマイナス（減った）の選択肢を選んだ事業体のバランスの変化を捉えるためのものです。



※「素材生産動向の単純分布指数 (DI)」とは

アンケート調査の回答においてプラス（極めて順調、やや順調）の選択肢とマイナス（やや不調、極めて不調）の選択肢を選んだ事業体のバランスの変化を捉えるためのものです。

平成27年11月

区分	有効回答数	構成百分率
増えた	82	38%
変わらない	78	36%
減った	55	26%
合計	215	100%

素材生産量の単純分布指数 (DI)
= (38%) - (26%)

有効回答数とは、前月との比較が可能な事業体数

平成27年11月

区分	有効回答数	構成百分率
極めて順調	7	4%
やや順調	37	21%
変わらない	101	59%
やや不調	26	15%
極めて不調	2	1%
合計	173	100%

素材生産動向の単純分布指数 (DI)
= { (4% × 2) + (21%) - (15% + (1% × 2)) } ÷ 2